

2011（平成 23）年度

日本医学会年次報告

2012 年 2 月 22 日

日本医学会

目 次

1. 日本医学会総会	1
1) 第28回日本医学会総会	1
2) 「第29回日本医学会総会2015関西」の準備	2
2. 日本医学会幹事会	4
3. 日本医学会定例評議員会	4
4. 日本医学会法人化準備委員会	4
5. 日本医学会シンポジウム	5
1) 日本医学会シンポジウム	5
2) 日本医学会シンポジウム企画委員会	5
3) 日本医学会シンポジウム組織委員会	6
4) 日本医学会シンポジウム記録(DVD)	6
5) 日本医学会シンポジウムの要旨	7
6. 日本医学会公開フォーラム	7
1) 日本医学会公開フォーラム	7
2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会	7
3) 日本医学会公開フォーラム記録(DVD)	8
7. 日本医学会分科会用語委員会	8
8. 日本医学会医学用語管理委員会	9
9. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	9
10. 日本医学会加盟検討委員会	11
11. 日本医学会あり方委員会	12
12. 日本医学会臨床部会運営委員会	12
13. 日本医学会臨床部会運営委員会専門医制に関する委員会	13
14. 日本医学会臨床部会運営委員会診療関連死に関する委員会	13
15. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	14
16. 日本医学会分科会利益相反会議	14
17. 日本医学会臨床部会利益相反委員会	15
18. 日本医学会社会部会 Japan CDC (仮称) 創設に関する委員会	15
19. 日本医学雑誌編集者会議(JAMJE) 総会・シンポジウム	16
20. 日本医学雑誌編集者組織委員会	16
21. 日本専門医制審議会	17
22. 日本医学会だより	17
23. 情報発信	18
24. 会議等の開催数	19
25. その他	20

綴じ込み

日本医学会だより No.45	21
日本医学会だより No.46	23
動物愛護管理法の見直しに際して実験動物に対する配慮への要望	25
「動物愛護管理のあり方について(案)(「動物取扱業の適性化」を除く)」に対する意見	27
「今後の医学部入学定員の在り方等に関する検討会」論点整理への意見	28
「動物愛護管理のあり方検討小委員会の最終報告に対する意見」	29

1. 日本医学会総会

1) 第28回日本医学会総会

第28回日本医学会総会は、矢崎義雄会頭、小川秀興副会頭、鈴木聰男副会頭、[※]開原成允副会頭、永井良三準備委員長の下、「いのちと地球の未来をひらく医学・医療—理解・信頼そして発展—」とメインテーマを定め、2011年4月開催に向け諸準備を進めた。

学術講演は、日本医学会の各分科会との共同企画とし、「医療を語る」、「医学を語る」、「臨床実習の現状と課題」、市民公開シンポジウム「みんなで考える新しい医療」、国民皆保険制度50周年記念シンポジウム等、医療のあり方についてさまざまな角度から論じることを意図したプログラムを企画し、また学術講演要旨の電子書籍化などの取り組みを行った。

博覧会は、一般市民と医療者が理解しあい、行動を起こす契機とすべく、「共に考え協力し、実践する医療へ」をコンセプトに「わかろう医学 つくろう健康！ EXPO2011」の準備を進めた。

しかしながら、3月11日に東日本大震災が発生し、社会への影響と参加者の安全を考慮して一箇所に集合しての開催は取りやめ、開催形態を大幅に変更することとなった。

学術講演については、天皇陛下から本総会へのおことばを賜り、予定されていた講演者の8割を超える方々から発表データ提供の協力を得て学術講演DVDを作成し、2011年7月に20,000名を超える参加登録者に送付した。さらに、当初予定されていた一部の講演に加えて災害医療、放射線医療を取り扱った学術講演会である「特別企画」を9月17日～18日に東京ビッグサイトで開催し、約1,300名の参加者を得た。博覧会は6月15日～9月30日の間、当初企画したコンテンツをインターネット上で公開するとともに、6月24日～26日には既に制作が完了していたコンテンツを活用して科学技術館で体験博覧会を開催し、約15,000名が来場した。

また、2月11日から国立科学博物館で開催されていた医学教育史展「歴史でみる・日本の医師のつくり方—日本における近代医学教育の夜明けから現代まで—」

は当初予定通り 4 月 10 日まで開催し、約 48,000 名の来場者が医学・医療の発展の歴史を学んだ。

これらの事業を終えた後、開催形態変更により生じた余剰金は参加登録者に参加登録費の一部返金として概ね 53 %を返金した。

日本医学会の各分科会からは開催形態変更後も単位取得を認定していただくなど、未曾有の大災害に直面しながらも、関係する方々からの多大なるご尽力を得て開催まで辿り着くことができた。

2) 「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」の準備

第 29 回日本医学会総会（2015 年）は、関西地区で開催することとし、その準備状況としては、2012 年 1 月現在、下記の諸点が決定している。

①役員

会 頭 井村 裕夫（京都大学名誉教授，元京都大学総長）
副 会 頭 本庶 佑（京都大学名誉教授）
副 会 頭 山岸 久一（京都府特別参与，前京都府立医科大学学長）
副 会 頭 平野 俊夫（大阪大学総長）
副 会 頭 高井 義美（神戸大学医学部教授）
副 会 頭 森 洋一（京都府医師会長）
準備委員長 三嶋 理晃（京都大学）
顧 問 湊 長博（京都大学）
馬場 忠雄（滋賀医科大学学長）
吉川 敏一（京都府立医科大学学長）
橋本 信夫（国立循環器病研究センター総長）
乾 賢一（京都薬科大学学長）
我部山キヨ子（京都府看護協会会長）
総務委員長 上本 伸二（京都大学）
プログラム委員長 高橋 良輔（京都大学）
展示委員長 杉村 和朗（神戸大学）

広報委員長 木下 茂 (京都府立医科大学)
登録委員長 吉川 敏一 (京都府立医科大学)
記録委員長 斎藤 能彦 (奈良県立医科大学)
式典委員長 柏木 厚典 (滋賀医科大学)
財務委員長 千葉 勉 (京都大学)
ソーシャルイベント委員長 油谷 桂朗 (京都府医師会)
幹事長 平井 豊博 (京都大学)
事務局長 中村 泰三

②会期

学術講演：2015 (平成 27) 年 4 月 11 日 (土) ～ 13 日 (月) (予定)
学術展示：2015 (平成 27) 年 4 月 10 日 (金) ～ 13 日 (月) (予定)
公開展示：2015 (平成 27) 年 3 月 28 日 (土) ～ 4 月 5 日 (日) (予定)
医学教育史展：2015 (平成 27) 年 2 月 11 日 (水・祝) ～ 4 月 12 日 (日) (予定)

③総会会場 国立京都国際会館, 京都会館

学術講演 国立京都国際会館, 芝蘭会館, 京都大学百周年時計台記念館,
グランドプリンスホテル京都, 他

学術展示 京都市勧業館「みやこめっせ」

一般市民向け公開展示 神戸国際展示場

医学教育史展 京都大学総合博物館

④主務機関

京都大学医学部, 京都府立医科大学, 大阪大学医学部, 神戸大学医学部, 滋賀医科大学, 大阪市立大学医学部, 奈良県立医科大学, 和歌山県立医科大学, 関西医科大学, 大阪医科大学, 近畿大学医学部, 兵庫医科大学, 国立循環器病研究センター, 京都府医師会, 大阪府医師会, 兵庫県医師会, 滋賀県医師会, 奈良県医師会, 和歌山県医師会

⑤メインテーマ (案)

「健康社会のためのきずなの構築－医学と医療制度の未来を拓く－」

⑥「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」事務局

〒 606-8501 京都市左京区吉田近衛町 京都大学医学部 D 棟 1 階 111 号室

Tel/Fax : 075-752-6025 (直通) e-mail:spes96d9@clear.ocn.ne.jp

2. 日本医学会幹事会

日本医学会臨時幹事会を平成 23 年 7 月 13 日（水）に開催。主な議題は「日本医学会の法人化について」等であった。

第 8 回日本医学会幹事会を、平成 24 年 2 月 22 日（水）に開催。主な議題は、「平成 23 年度日本医学会年次報告」、「平成 24 年度日本医学会事業計画」、「日本医学会長・副会長の選挙および幹事の選挙」、「日本医学会の法人化について」等である。

3. 日本医学会定例評議員会

第 79 回日本医学会定例評議員会を、平成 24 年 2 月 22 日（水）に開催。主な議題は、「平成 23 年度日本医学会年次報告」、「平成 24 年度日本医学会事業計画」、「日本医学会長・副会長の選挙および幹事の選挙」、「日本医学会の法人化について」等である。

4. 日本医学会法人化準備委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、本年度新設された委員会で、委員は富野康日己（委員長）、里見 進（副委員長）、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、福永慶隆、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の 12 名で構成されている。

本年度は 2 回開催した。第 1 回委員会は平成 23 年 9 月 13 日に開催、経緯説明と今後の予定について意見交換を行った。第 2 回委員会は 12 月 19 日に開催。

5. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり2回開催した。

・第140回日本医学会シンポジウム

テーマ：炎症性腸疾患－最近の進歩－

開催日：平成23年6月9日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：菅野健太郎（自治医科大学内科学講座消化器内科学部門主任教授／
附属病院副院長）

日比 紀文（慶應義塾大学医学部内科学（消化器）教授）

畠山 勝義（新潟大学大学院消化器・一般外科教授）

参加者数：266名

・第141回日本医学会シンポジウム

テーマ：がん分子標的治療の進歩

開催日：平成23年12月8日（木）

開催場所：日本医師会館大講堂

組織委員：前原 喜彦（日本癌治療学会理事長／九州大学大学院消化器・総合
外科教授）

野田 哲生（日本癌学会理事長／公的財団法人がん研究会常務理事／
がん研究所所長）

田村 和夫（日本臨床腫瘍学会理事長／福岡大学医学部腫瘍・血液・
感染症内科学教授）

参加者数：334名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

日本医学会シンポジウム企画委員会（委員：栗原裕基，岡野栄之，春日雅人，前原喜彦，小林廉毅）は，日本医学会シンポジウムの基本方針，テーマおよび組織委

員について、企画構成を行う。今年度は、次のとおり2回開催した。

・第15回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成23年5月11日）

第141回シンポジウムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：がん分子標的治療の進歩

組織委員：前原 喜彦（日本癌治療学会理事長／九州大学大学院消化器・総合
外科教授）

野田 哲生（日本癌学会理事長／公的財団法人がん研究会常務理事／
がん研究所所長）

田村 和夫（日本臨床腫瘍学会理事長／福岡大学医学部腫瘍・血液・
感染症内科学教授）

・第16回日本医学会シンポジウム企画委員会（平成23年11月9日）

第142回シンポジウムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：糖尿病治療の最近の進歩

組織委員：春日 雅人（独立行政法人国立国際医療研究センター研究所長／
糖尿病研究センター長）

河盛 隆造（順天堂大学医学部代謝内分泌学教授）

門脇 孝（東京大学医学部糖尿病・代謝内科教授／東京大学医学部
附属病院病院長）

3) 日本医学会シンポジウム組織委員会

シンポジウム組織委員会では、企画委員会で決定した当該のシンポジウムのテーマならびに基本方針に基づいて、プログラム構成、および座長、演者を選出し、シンポジウムの実質的運営にあたる。

4) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第140回日本医学会シンポジウム：炎症性腸疾患－最近の進歩－」、 「第141回日本医学会シンポジウム：がん分子標的治療の進歩」のシンポジウムの全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」の項で映像配信した (URL:<http://jams.med.or.jp/>)。)

5) 日本医学会シンポジウムの要旨

要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第140回シンポジウム「炎症性腸疾患－最近の進歩－」：第140巻第7号（平成23年10月号）、第141回シンポジウム「がん分子標的治療の進歩」：第140巻第12号（平成24年3月号予定）。

6. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

・第12回日本医学会公開フォーラム

テ－マ：心の病－うつ病を中心として－

開 催 日：平成23年6月4日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：樋口 輝彦（独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長
・総長）

参加者数：384名

・日本医学会・日本医師会合同公開フォーラム

テ－マ：放射線と人体－正しい理解のために－

開 催 日：平成23年10月29日（土）

開 催 場 所：日本医師会館大講堂

組織委員長：長瀧 重信（長崎大学名誉教授）

参加者数：395名

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，五阿弥宏安，高杉敬久）は，日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり2回開催した。

- ・第12回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成23年5月11日）

企画委員会で日本医学会・日本医師会合同公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：放射線と人体－正しい理解のために－

組織委員長：長瀧 重信（長崎大学名誉教授）

- ・第13回日本医学会公開フォーラム企画委員会（平成23年11月9日）

企画委員会で第13回公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：認知症の早期診断・治療とケア

組織委員長：岩坪 威（東京大学大学院医学系研究科神経病理学教授）

3) 日本医学会公開フォーラム記録（DVD）

「第12回日本医学会公開フォーラム：心の病－うつ病を中心として－」，「日本医学会・日本医師会合同公開フォーラム：放射線と人体－正しい理解のために－」のフォーラムの全容を，DVDに制作し，関係各位に謹呈した。

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」の項で映像配信した（URL:<http://jams.med.or.jp/>）。

7. 日本医学会分科会用語委員会

平成23年度日本医学会分科会用語委員会を平成23年12月20日に開催した。主な議事は，①日本医学会医学用語辞典について，②日本医学会医学用語辞典と分科会用語辞典の調整について，③日本医学会医学用語辞典和英について，④ICD10対応標準病名マスターの現状報告，⑤第4回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）・第4回シンポジウム報告等である。

8. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、委員長：脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長／大学評価・学位授与機構客員教授），副委員長：大江和彦（東京大学大学院教授），小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授），河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授），坂井建雄（順天堂大学大学院教授），清水英佑（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター所長），田中牧郎（国立国語研究所准教授），辻 省次（東京大学大学院教授），森内浩幸（長崎大学大学院教授），山口 巖（茨城県総合健診協会会長），山口俊晴（癌研有明病院副院長）の11名により構成されている。

本年度は、2回開催した。第1回医学用語管理委員会（平成23年6月30日）の主な議事としては、①経過報告（1.日本医学会医学用語辞典2011（CD-ROM版）について、2.日本医学会総会時の一般公開シンポジウム「医学用語を考える」），②日本医学会医学用語辞典英和第3版（WEB版）について、③日本医学会医学用語辞典和英版（WEB版）について、④日本内視鏡外科学会の用語整理について、等である。第2回医学用語管理委員会（平成23年12月20日）の主な議事は、①平成23年度日本医学会分科会用語委員会について、②その他（分科会用語辞典と日本医学会医学用語辞典の違いについて、行政用語について、日本医学会医学用語辞典web版（和英・英和）利用者の範囲について），等である。

9. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は平成23年9月7日（水）に開催された。

委員構成は会長・副会長・幹事を中心に構成。これに特例委員として、辻 省次（東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻長），山口 徹（虎の門病院病院長），星野雄一（自治医科大学医学部教授），高橋 浩（日本医科大学付属病院眼科部長），堀江重郎（帝京大学医学部泌尿器科学主任教授），の5氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞3名、医学研究奨励賞15名が選考され、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第140巻第10号）に掲載した。

[平成23年度日本医師会医学賞]

- ・マウスモデルを用いた大腸がんの研究
武藤 誠／京大・遺伝薬理学
- ・わが国から胃癌を撲滅するための具体的戦略
浅香 正博／北大・がん予防内科学
- ・超高齢社会における新しい運動器学の構築とその病態解明，および先端的評価法・治療法の開発
中村 耕三／国立障害者リハビリテーションセンター

[平成23年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・膵β細胞の分泌準備分子機構の可視化解析：神経終末との対比
高橋 倫子／東大疾患生命工学センター・構造生理学
- ・新規生体分子イメージングによる慢性炎症を基盤とする生活習慣病病態の解明
西村 智／東大・循環器内科学
- ・ヒト体細胞から直接ヒト心筋細胞を作成するリプログラミング技術の開発
家田 真樹／慶大・循環器内科学
- ・肺がん原因遺伝子 EML4-ALK の発見と臨床応用
曾田 学／自治医大・ゲノム機能研究部
- ・自然免疫系におけるウイルス認識機構に着目した新たな感染防御へのアプローチ
高岡 晃教／北大遺制研・分子生体防御分野
- ・筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子 Optineurin のモデルマウスの作製・評価
丸山 博文／広大原爆放医研・分子疫学
- ・消化器癌幹細胞における CD44 を介した ROS 制御機構の解明と治療への応用
石本 崇胤／熊本大・消化器外科学

- ・通信情報技術を活用し構築した緑内障診療支援システムの課題と有用性の証明
柏木 賢治／山梨大・地域医療学
- ・長寿・老化モデルマウスを用いた慢性炎症機構の解明
南野 徹／千葉大・循環病態医科学
- ・脳梗塞に対する血管保護療法の確立に関する研究
下畑 享良／新潟大脳研・神経内科学
- ・消化器癌細胞全ゲノム解析による再発転移機構の解明
三森 功士／九大別府病院・外科学
- ・凍結免疫療法を併用した新しい脊椎転移がん手術の開発
村上 英樹／金沢大・機能再建学
- ・卵巣癌の分子生物学的特性を利用した新規治療法の開発
中山健太郎／島根大・産科婦人科学
- ・尿路結石の形成機序における環境要因と遺伝要因からみた病態解明
安井 孝周／名市大・腎・泌尿器科学
- ・ヒトパピローマウイルスを指標とした原発不明癌頸部リンパ節転移の個別化治療
猪原 秀典／阪大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

10. 日本医学会加盟検討委員会

平成 23 年度第 1 回日本医学会加盟検討委員会は、平成 23 年 6 月 8 日に開催した。
委員長：久道 茂（日本医学会副会長／宮城県対がん協会会長），委員：宮園浩平（東京大学大学院医学系研究科長・医学部長），高井義美（神戸大学大学院医学研究科教授），山田信博（筑波大学長），高野健人（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授），中路重之（弘前大学大学院医学研究科長・医学部長），松岡博昭（宇都宮中央病院病院長），高本眞一（三井記念病院院長），岡本眞一郎（慶應義塾大学医学部教授），跡見 裕（杏林大学学長），大久保一郎（筑波大学人間総合科学研究科教授），岡野栄之（慶應義塾大学医学部教授），福原俊一（京都大学大学院医学研究科教授）

の13名である。

平成23年度第1回日本医学会加盟検討委員会では、日本医学会加盟検討委員会報告（平成21年3月）の改定について、検討を行い、改定案を委員会として了承した。

平成23年度第2回日本医学会加盟検討委員会は平成23年12月14日に開催した。今年度の加盟申請の25学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

11. 日本医学会あり方委員会

日本医学会あり方委員会は平成16年に発足した。委員は、金澤一郎（委員長）、池田康夫、* 鴨下重彦、越智隆弘、岡井 崇、實成文彦の6名で構成。あり方委員会における検討議題としては、新規加盟、専門医制、日本医学会総会、日本医学会シンポジウム、日本医学会の今後の活動などである。

*平成23年11月10日逝去

12. 日本医学会臨床部会運営委員会

日本医学会臨床部会運営委員会の委員は、10学会の基本領域学会と2学会のSubspecialty学会から構成している。基本領域学会委員：寺本民生（委員長）、里見進（副委員長）、横田俊平、飯島正文、佐藤忠彦、三浪明男、落合和徳、根木 昭、市川銀一郎、有賀 徹。Subspecialty学会委員：菅野健太郎、高本眞一。

13. 日本医学会臨床部会運営委員会専門医制に関する委員会

日本医学会臨床部会運営委員会専門医制に関する委員会の委員は委員長：山口 徹（日本専門医制評価・認定機構副理事長），副委員長：里見 進（日本専門医制・評価認定機構副理事長），池田康夫（日本専門医制評価・認定機構理事長），落合和徳（東京慈恵会医科大学教授），四宮謙一（横浜市立みなと赤十字病院病院長），寺本民生（帝京大学医学部長），根木 昭（神戸大学大学院医学系研究科長）の7名と，オブザーバーとして，高杉敬久（日本医師会常任理事）の8名から構成されている．本委員会は，日本専門医制評価・認定機構と合同の形で開催する．合同の理由は，それぞれ単独開催だと狭い範囲を見てしまう傾向になるので，専門医制度全体を俯瞰的に眺めることにある．

14. 日本医学会臨床部会運営委員会診療関連死に関する委員会

日本医学会臨床部会運営委員会診療関連死に関する委員会は平成19年度に発足した．委員構成は，委員長：寺本民生（日本内科学会理事長），副委員長：高本眞一（日本心臓血管外科学会理事長），委員：青笹克之（日本病理学会理事長），里見 進（日本外科学会理事長），杉本 壽（日本救急医学会前代表理事），中園一郎（日本法医学会前理事長），森田 潔（日本麻酔科学会理事長）の7名である．

第6回委員会は，平成23年4月11日に開催した．議事は，①民主党からの説明の件，②自民党からの説明の件，③診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業の現状と今後の方向性について，等である．オブザーバーとして，梅村 聡民主党参議院議員と古川俊治自民党参議院議員，並びに原 義人日本医療安全調査機構中央事務局長が出席し，意見交換を行った．

15. 日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成 23 年度、『日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会』が、発足した。委員長：福嶋義光（信州大学医学部教授），委員：鎌谷直之（理化学研究所ゲノム医科学研究センター長），高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授），中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授／大学病院ブレストセンター診療科長），宮地勇人（東海大学医学部基盤診療医学系臨床検査学教授），横田俊平（横浜市立大学小児科学教授）の 6 名である。

第 1 回委員会は平成 23 年 5 月 24 日に開催した。日本医学会として取り組むべき課題として、①医療における遺伝子情報の取扱（遺伝カウンセリングのあり方），②一般市民を対象とした検査，③こどもと遺伝子，④がんと遺伝子，⑤多因子疾患，薬物治療と遺伝子，⑥検査の質保証，提供体制，等が挙げられた。

第 2 回委員会は平成 23 年 11 月 29 日に開催し，日本医学会として取り組むべき課題について，各委員から資料の提示と説明がなされた。

第 3 回委員会は平成 24 年 3 月 1 日に開催し，同日に記者会見予定。

16. 日本医学会分科会利益相反会議

第 2 回日本医学会分科会利益相反会議は，平成 23 年 11 月 16 日に開催した。詳細は，日本医学会ホームページに掲載したので，参照いただきたい。

総会に引き続き，シンポジウムは，曾根三郎（徳島大学名誉教授／JA 高知病院院長），平井昭光（レックスウェル法律特許事務所所長）の司会の下，下記のプログラムで開催された。

- ・国際的な COI マネージメントの現状と動向／J.Patrick Barron（東京医科大学国際医学情報学主任教授）
- ・医科系大学における COI マネージメントの現状と問題点／玉置俊晃（国立大学医学部長会議研究倫理に関する小委員会委員長）

- ・学会における COI マネージメントの現状と問題点／高後 裕（旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授）
- ・製薬企業における COI マネージメントへの取り組み／花輪正明（日本製薬工業協会医薬品評価委員会副委員長）
- ・医学研究における産学連携と国民の理解／浅井文和（朝日新聞社編集委員）

17. 日本医学会臨床部会利益相反委員会

平成 22 年度、「日本医学会臨床部会利益相反委員会」が、発足した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／JA 高知病院院長），委員：河上 裕（慶應義塾大学大学院医学研究科先端医科学教授），高後 裕（旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授），土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授），平井昭光（レックスウェル法律特許事務所所長），J.Patrick Barron（東京医科大学国際医学情報学主任教授）の 6 名で構成。

第 3 回委員会は平成 23 年 5 月 20 日に開催した。議事は、①第 2 回日本医学会分科会利益相反会議（案），②日本医学会ホームページの Q & A コーナーについて，③日本医学会 医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン英語版について，等である。

第 4 回委員会は平成 24 年 3 月 14 日に開催予定。

18. 日本医学会社会部会 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会

「日本医学会社会部会 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会」は平成 21 年に発足した。委員構成は，委員長：實成文彦（山陽学園大学・山陽学園短期大学副学長），委員：大前和幸（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教授），児玉和紀（放射線影響研究所主席研究員），佐藤 洋（東北大学大学院医学系研究科社会医学環境保健医

学教授), 丸井英二 (順天堂大学医学部公衆衛生学教授) の5名である。

19. 日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・シンポジウム

第4回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第4回シンポジウムは, 平成23年10月5日に開催した。詳細は, 日本医学会ホームページに掲載したので, 参照いただきたい。

第4回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会に引き続き, シンポジウムは, 北村 聖 (東京大学医学教育国際協力研究センター教授), 津谷喜一郎 (WPRIM 国内委員会委員長/東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授) の司会の下, 下記のプログラムで開催された。

- ・ ICMJE のガイドライン/中山健夫 (京都大学大学院医学研究科健康情報学教授)
- ・ WAME のガイドライン/北川正路 (東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐)
- ・ 二重投稿と重複発表/山崎茂明 (愛知淑徳大学人間情報学部人間情報学科教授)
- ・ 臨床試験登録について/木内貴弘 (東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授)
- ・ 「日本医学会 医学雑誌編集のガイドライン」の構成案/北村 聖 (東京大学医学教育国際協力研究センター教授)

20. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成20年に発足した。委員構成は, 委員長: 北村 聖 (東京大学医学教育国際協力研究センター教授), 委員: 木内貴弘 (東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授), 北川正路 (東京慈恵会医科大学学術情報センター課長補佐), 津谷喜一郎 (東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学特任教授), 根岸正光 (国立情報学研究所名誉教授), 三沢一成 (特

定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会専務理事), 湯浅保仁 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授), 吉岡俊正 (東京女子医科大学医学教育学教授) の 8 名である。

第 7 回日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成 23 年 5 月 12 日に開催した。①第 4 回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) ・第 4 回シンポジウム, ②「医学雑誌編集のガイドライン」の構成, ③日本医学会分科会機関誌一覧の Web 掲載, ④ The First Congress of APAME (平成 23 年 8 月 28 日～ 31 日) (ソウル), 等について意見交換を行った。

第 8 回日本医学雑誌編集者組織委員会は, 平成 24 年 3 月 13 日に開催予定。

21. 日本専門医制審議会

専門医制について意見交換をし, 厚生労働省などに意見を勧告することを目的とする。会議のメンバーは日本医師会, 日本専門医制評価・認定機構, 日本医学会, 学識経験者, 市民代表など 10 名で構成されている。座長: 高久史磨 (日本医学会長), 副座長: * 鴨下重彦 (学識経験者/国立国際医療センター名誉教授), 以下のメンバーは門田守人 (日本医学会副会長), 横倉義武 (日本医師会副会長), 高杉敬久 (日本医師会常任理事), 池田康夫 (日本専門医制評価・認定機構理事長), 山口 徹 (日本専門医制評価・認定機構副理事長), 堺 常雄 (学識経験者/日本病院会会長), 鳥海巖 (市民代表/東京国際フォーラム取締役社長), 渡辺俊介 (市民代表/国際医療福祉大学大学院教授)。

*平成 23 年 11 月 10 日逝去

22. 日本医学会だより

平成元 (1989) 年度より発行している日本医学会だより (JAMS News) は, 本年

度、5月にNo.45を、10月にNo.46を発行した（綴じ込みの「日本医学会だより」を参照）。

23. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（URL:<http://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしている。

平成23年5月17日、「日本医学会 東日本大震災関連情報」を本会ホームページに掲載。

平成23年8月16日、「日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン」Q & Aを本会ホームページに掲載。

平成23年9月1日、「日本医学会分科会機関誌一覧」を本会ホームページに掲載。

平成23年9月28日、環境大臣ほか関係議員に「動物愛護管理法の見直しに際して実験動物に対する配慮への要望」を提出した。同要望書は本会ホームページ「お知らせ」欄（<http://jams.med.or.jp/news/018.html>）に掲載。

平成23年9月16日、「日本医学会 医学研究のCOI マネージメントに関するガイドライン」英語版を本会ホームページに掲載。

平成23年12月5日に、環境省からの『「動物愛護管理のあり方について（案）（動物取扱業の適性化）を除く）』に対する意見の募集』にパブリックコメントを提出。

同月27日に、文部科学省からの『「今後の医学部入学定員の在り方等に関する検討会」論点整理に関する意見募集』にパブリックコメントを提出。

平成24年1月27日に民主党環境部門・動物愛護対策ワーキングチームに「動物愛護管理のあり方検討小委員会の最終報告に対する意見」を提出。

これらのパブリックコメント・意見は本会ホームページ「お知らせ」欄に掲載。

24. 会議等の開催数

日本医学会協議会（会長，副会長）	11回
日本医学会幹事会	2回
日本医学会評議員会	1回
日本医学会法人化準備委員会	2回
日本医学会シンポジウム	2回
日本医学会シンポジウム打ち合わせ会	2回
日本医学会公開フォーラム	2回
日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会	2回
日本医学会シンポジウム企画委員会	2回
日本医学会シンポジウム組織委員会	0回
日本医学会公開フォーラム企画委員会	2回
日本医学会公開フォーラム組織委員会	0回
日本医学会分科会用語委員会	1回
日本医学会医学用語管理委員会	2回
医学用語打ち合わせ会	2回
日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会	1回
日本医学会加盟検討委員会	2回
日本医学会あり方委員会	0回
日本医学会臨床部会会議	0回
日本医学会臨床部会運営委員会	0回
日本医学会臨床部会運営委員会専門医制に関する委員会	0回
日本医学会臨床部会運営委員会診療関連死に関する委員会	1回
日本医学会分科会利益相反会議	1回
日本医学会分科会利益相反会議打ち合わせ会	1回
日本医学会臨床部会利益相反委員会	2回
日本医学会臨床部会運営委員会「遺伝子・健康・社会」検討委員会	3回

日本医学会社会部会 Japan CDC（仮称）創設に関する委員会	0回
日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・シンポジウム	1回
日本医学雑誌編集者組織委員会	2回
日本専門医制審議会	0回
移植関係学会合同委員会	1回
記者会見	1回
第28回日本医学会総会記者会見	0回

25. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を平成23年7月に作成，関係各方面に配付した。
- 2) 「平成24年日本医学会分科会総会一覧」を平成23年12月に関係各方面に配付した。
- 3) 「日本医師会年次報告書－平成23年度－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。

日本医学会だより

JAMS News

2011年5月 No.45
日本医学会

◆第78回日本医学会定例評議員会

平成23年2月23日に開催された。高久会長から、平成22年度年次報告、23年度事業計画の説明があった。引き続き、協議事項として、「日本医学会 医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン(案)の件」「第29回日本医学会総会役員人事の件」等が出され、承認された。また、本年度は「日本プライマリ・ケア連合学会」「日本手外科学会」の2学会の加盟が承認された。

◆第28回日本医学会総会

第28回日本医学会総会は、平成23年4月8日～10日、矢崎義雄会頭の下、「いのちと地球の未来をひらく医学・医療—理解・信頼そして発展—」をテーマに、東京で開催される予定であったが、3月11日に発生した東日本大震災の影響で総会のあり方を急遽見直すことになり、形態を変更しての開催となった。電子媒体やWebを活用してネット上での開催を予定している。

◆日本医学会加盟検討委員会

平成22年度第1回日本医学会加盟検討委員会は、平成22年11月10日に開催され、加盟申請の28学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。

平成22年度第2回日本医学会加盟検討委員会は、平成23年1月12日に開催され、審査方法についての検討を行い、2月23日の第78回定例評議員会に日本医学会加盟検討委員会報

告(平成21年3月)の新規加盟の審査基準の一部を改正する案を提出し、了承された。

◆日本医学雑誌編集者会議

平成23年3月2日に開催された第6回日本医学雑誌編集者組織委員会において、「医学雑誌編集のガイドライン」の作成を目的として、「第4回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第4回シンポジウム」を開催することが決定した。テーマ：医学雑誌編集のガイドライン、平成23年7月29日、13:00～16:00、日本医師会館小講堂で開催の予定。

◆日本医学会臨床部会運営委員会

臨床部会運営委員会は、日本医学会分科会の10の基本領域学会と2つの subspecialty 学会から委員構成されている。

運営委員会の下部組織には、専門医制に関する委員会、診療関連死に関する委員会等がある。

なお臨床部会会議、運営委員会等の議事録等は、本会のホームページ(<http://jams.med.or.jp/>)に掲載しているので、ご覧いただきたい。

◆日本医学会臨床部会利益相反委員会

臨床部会利益相反委員会は、平成22年11月15日開催の第2回委員会にて、「日本医学会医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン(案)」についての議論を重ねた後に、12月6日に108分科会へガイドライン案を送付して、意見を求めた。平成23年1月21日開催の第10回日本医学会臨床部会運営委員会に

は曾根三郎委員長がオブザーバーとして出席し、ガイドライン案を説明した。

最終案はその後、2月23日開催の第78回日本医学会定例評議員会において説明され、分科会の了承を得た。なお、ガイドラインは本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/guideline/index.html>) からダウンロードできる。

◆日本医学会医学用語管理委員会

平成22年12月2日に平成22年度日本医学会分科会用語委員会を開催した。「英和辞典WEB版について」、第28回日本医学会総会登録者に配布予定の「日本医学会医学用語辞典CD-ROM版(2011年)について」、「和英辞典WEB版の仕様について」、第28回日本医学会総会時に開催予定であった「一般公開シンポジウムについて」等が主な議題であった。

◆第12回日本医学会公開フォーラム

「心の病—うつ病を中心として—」をテーマに、平成23年6月4日(土)13:00~16:00、日本医師会大講堂において開催する。組織委員長：樋口輝彦独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長。市民を対象とした公開フォーラムであり、参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) のいずれかの方法でお申し込みいただきたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、Web上にて映像配信する。

1. 序論 今日のおうつ病—早期発見から社会復帰まで/樋口輝彦(独立行政法人国立精神・神経医療研究センター理事長・総長)。
2. うつ病はどのように診断されるか/神庭重信(九州大学大学院医学研究院・精神病態医学)。
3. うつ病の病態はどこまで明らかになっているか/山脇成人(広島大学大学院医歯学総合研究科・精神神経医科学)。
4. うつ病の治療はどのように進められるか/野村総一郎(防衛医科大学校・精神科)。
5. 社会復帰を目指すうつ病患者を、周囲はどのように支えれば良いのか?/尾崎紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科・精神医学)

◆第140回日本医学会シンポジウム

「炎症性腸疾患—最近の進歩—」をテーマに、平成23年6月9日(木)13:00~17:00に、日本医師会館大講堂において開催予定。組織委員は、菅野健太郎、日比紀文、畠山勝義の各氏。参加希望者は、上記フォーラムと同じ方法でお申し込みいただきたい。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、ホームページにて映像配信する。

序論/日比紀文(慶應義塾大・内科学)。

- I. わが国の炎症性腸疾患の疫学、病因、病態の最新情報
1. 潰瘍性大腸炎/松本誉之(兵庫医科大・下部消化管科)。
2. クロウン病/金井隆典(慶應義塾大・消化器内科学)。
- II. 炎症性腸疾患内科治療の進歩と課題(ガイドラインをまじえて)
3. 潰瘍性大腸炎/上野文昭(大船中央病院)。
4. クロウン病/渡辺守(東京医歯大・消化器内科)。
- III. IBD治療(内視鏡治療、外科治療)
5. クロウン病の内視鏡治療(拡張術)の適応と限界/山本博徳(自治医科大・消化器内科)。
6. クロウン病に対する外科治療の進歩/佐々木巖(東北大・生体調節外科)。
7. 潰瘍性大腸炎に対する外科治療の適応とその進歩(Colitic Cancerを含む)/渡邊聡明(帝京大・外科学)

◆医学賞・医学研究奨励賞

平成23年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞(旧医学研究助成費)の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日~7月5日。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ (<http://www.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

◆日本医学会への加盟申請

平成23年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日に公示(日本医師会雑誌等)し、7月31日に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) からダウンロードできる。

日本医学会だより

JAMS News

2011年10月 No.46
日本医学会

◆第28回日本医学会総会特別企画

第28回日本医学会総会は本年3月の東日本大震災の影響により開催形態の変更を余儀なくされたが、9月17日～18日、特別企画として東京国際展示場にて学術講演会が開催された。

放射線医療、震災後の地域社会と医療、医療と情報、「医の現在」から「医の未来」への4課題についてのシンポジウム他、記念講演2題、セミナー1題、講演20題が行われた。

◆第141回日本医学会シンポジウム

「がん分子標的治療の進歩」をテーマに、12月8日(木)13:00～17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、前原喜彦、野田哲生、田村和夫の各氏。郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて申込み受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月7日に開催し、平成23年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞23、奨励賞38を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・マウスモデルを用いた大腸がんの研究/武藤誠(京大・遺伝薬理学)
- ・わが国から胃癌を撲滅するための具体的戦略/浅香正博(北大・がん予防内科学)
- ・超高齢社会における新しい運動器学の構築とその病態解明、および先端的評価法・治療法の開発/中村耕三(国立障害者リハビリテーションセンター)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・膵β細胞の分泌準備分子機構の可視化解析：神経終末との対比/高橋倫子(東大疾患生命工学センター・構造生理学)
- ・新規生体分子イメージングによる慢性炎症を基盤とする生活習慣病病態の解明/西村智(東大・循環器内科学)
- ・ヒト体細胞から直接ヒト心筋細胞を作成するリプログラミング技術の開発/家田真樹(慶大・循環器内科学)
- ・肺がん原因遺伝子EML4-ALKの発見と臨床応用/曾田学(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・自然免疫系におけるウイルス認識機構に着目した新たな感染防御へのアプローチ/高岡晃教(北大遺制研・分子生体防御分野)
- ・筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価/丸山博文(広大原爆放医研・分子疫学)
- ・消化器癌幹細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用/石本崇

胤（熊本大・消化器外科学）

- ・通信情報技術を活用し構築した緑内障診療支援システムの課題と有用性の証明/柏木賢治（山梨大・地域医療学）
- ・長寿・老化モデルマウスを用いた慢性炎症機構の解明/南野 徹（千葉大・循環病態医科学）
- ・脳梗塞に対する血管保護療法の確立に関する研究/下畑享良（新潟大脳研・神経内科学）
- ・消化器癌細胞全ゲノム解析による再発転移機構の解明/三森功士（九大別府病院・外科学）
- ・凍結免疫療法を併用した新しい脊椎転移がん手術の開発/村上英樹（金沢大・機能再建学）
- ・卵巣癌の分子生物学的特性を利用した新規治療法の開発/中山健太郎（島根大・産科婦人科学）
- ・尿路結石の形成機序における環境要因と遺伝的要因からみた病態解明/安井孝周（名市大・腎・泌尿器科学）
- ・ヒトパピロームウイルスを指標とした原発不明癌頸部リンパ節転移の個別化治療/猪原秀典（阪大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

◆日本医学会法人化準備委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、本年度新設された委員会で、委員は富野康日己（委員長）、里見 進（副委員長）、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、福永慶隆、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。第1回委員会は9月13日（火）に開催された。

◆日本医学会分科会利益相反会議

「産学連携における医学研究とCOIマネジメントの在り方」をシンポジウムテーマとした第2回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月16日（水）13：00～16：20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームペー

ジ（<http://jams.med.or.jp/>）にて、申し込まれたい。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「国際的なCOIマネジメントの現状と動向」(J. Patrick Barron 東京医科大学国際医学情報学主任教授)、「医科系大学におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(玉木俊晃 国立大学医学部長会議研究倫理に関する小委員会委員長)、「学会におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(高後 裕 旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授)、「製薬企業におけるCOIマネジメントへの取り組み」(花輪正明 日本製薬工業協会医薬品評価委員会副委員長)、「医学研究における産学連携と国民の理解」浅井文和（朝日新聞社編集委員）のそれぞれの講演が行われる予定。

◆移植関係学会合同委員会

第30回移植関係学会合同委員会が平成23年9月6日、厚生労働省で開催された。

小腸移植実施施設については、旭川医科大学病院、自治医科大学附属病院、国立成育医療研究センター、熊本大学医学部附属病院の4施設が追加認定された。

肝臓移植実施施設については、岩手医科大学附属病院が追加認定された。

心肺同時移植実施施設については、東北大学病院が追加認定された。

腎臓移植のレシピエント登録は、「透析導入後またはそれに準ずる者」とされてきたが、透析導入前の腎不全患者にも適応を拡大することとした。

肝臓移植レシピエント適応基準については、「劇症肝炎」「肝移植後肝不全」および「非代償性肝硬変」の重傷度の評価基準などを変更した。

心臓移植レシピエント適応基準では、「60歳未満が望ましい」となっていたが、「65歳未満が望ましい」へ変更することが発議され、臓器移植委員会における、心臓移植希望者選択基準に係る検討の結果を踏まえて、施行されることとなった。

平成 23 年 9 月 28 日

環 境 大 臣
細 野 豪 志 先生

日本医学会長 高 久 史 磨

動物愛護管理法の見直しに際して実験動物に対する配慮への要望

平素より医学研究推進のためにご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、医学研究や医療技術の開発において動物実験は必要不可欠な手段であり、動物実験が人類の健康増進、福祉向上のために果たしてきた役割は大きなものがあります。日本医学会は、わが国の医学研究や医療技術の開発に必要な動物実験が、学術研究および製薬・医療行政の下で、科学的な信頼性の確保と動物愛護のバランスに配慮しながら、適正に実施されてきたと認識しています。

日本学術会議の「動物実験に対する社会的理解を促進するために（提言）」が2004年に公表されて以来、動物愛護管理法を所管する環境省、学術研究を所管する文部科学省、製薬・医療行政を所管する厚生労働省等の関係省庁の協議と国民的議論を経て、2005年に動物愛護管理法の改正、2006年に文部科学省、厚生労働省、農林水産省による動物実験の実施に関する基本指針が制定され、さらに日本学術会議による詳細な指針「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」が定められました。

2006年に完成したこの新制度は国際的にも認知され、新制度の下で科学的にも動物愛護の観点からも適正な動物実験の実施体制が整備され、新制度の普及、周知は着実に進められ、その実効性を担保する第三者評価制度も所管省庁の指導の下で構築され、動物実験の適正な実施と動物実験に対する社会的な理解が格段に進展しつつあると思います。

動物実験が医学・医療の進歩、ひいては国民医療の向上に必要な不可欠であることは広く認められています。また、実験動物を取り扱う医療機関は「動物実験倫理委員会」を

設置して実験動物を使用せざるを得ない理由を、多人数の委員によって極めて厳格に審議し、承認された場合だけ実験動物の使用が許されており、犠牲死させる場合でも、実験動物に過度の苦痛を生じない手段を講じることが許可の条件となっています。各大学医学部や医科大学では毎年「実験動物慰霊祭」を全学的な行事として行っています。

医学研究に必須な動物実験に際しては、上述の様な慎重な対応を取っています。

現在進められている動物愛護管理法の見直しの主要課題の6で、実験動物の福祉に関して「届出制または登録制等の規制導入の検討」が取り上げられている様ですが、医学研究のための実験動物の取扱いについて、特別な配慮を日本医学会としてお願いする次第であります。

「動物愛護管理のあり方について（案）（「動物取扱業の適性化」を除く）」 に対する意見

わが国すべての医科大学，医学部では，動物実験に関する慎重な審査会が設定されており，厳重な審査を経て動物実験が行われています。

また，各大学は毎年動物慰霊祭を行い，実験により犠牲となった動物に対する慰霊を行ってきています。従って，実験動物に対する現行法の改正は不要であり，各大学，各研究機関における動物実験の現在の自主管理を着実に推進することが必要であると考えます。

なお，今回の小委員会では委員構成に偏りがあり，公正な議論がなされているかどうか，また，ヒアリングの内容が活かされているかどうかについて疑問を抱かざるを得ません。

また，実験動物生産者に対する届け出制に関しても，動物実験者は「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」の対象に含まれ，農水省から（社）日本実験動物協会を通じて基準遵守の指導がなされていること，並びに実験動物生産者と実験動物使用者は，表裏一体の関係にあり，生産者に対する規制を強化することが科学技術や医療の進歩に甚大な影響が及ぶことから，届け出制の導入に反対します。

「今後の医学部入学定員の在り方等に関する検討会」 論点整理への意見

現在、各医科大学（医学部）は定員数を加速度的に増加させており、将来、わが国の人口の減少に伴い、医師過剰の状態が出現し、その結果、医師の養成数を減少させる事態が生ずることが十分に予想される。そのような状況を考えると医学部の増設には反対である。

どのような医師を養成し、その医師をどのように配置するかの具体的な方策を示さずに医師の養成数に関するアンケートを行うのは問題である。

例えば、将来の人口の減少や高齢化を考えるならば、徒に医師数を増やすのではなく、今後のわが国に相応しい医療提供体制の構築や、総合的な診療能力を持つ総合医の養成につとめるべきである。

(平成 24 年 1 月 27 日提出)

動物愛護管理のあり方検討小委員会の最終報告に対する意見

平成 23 年 12 月に中央環境審議会動物愛護部会動物愛護管理のあり方検討小委員会は「動物愛護管理のあり方検討報告書」を取りまとめ、これを受けて環境省動物愛護管理室はパブリックコメントを募集し、その結果を踏まえて最終報告書を公表しました。報告書の第 7 に、実験動物の取扱いに関する見解が記載されています。その要点は以下の通りです。

- 現在の仕組みの充実とある程度時間をかけた検証が重要
- 施設の把握、事故・災害時の実態把握のために、関係団体の連携強化や届出制等を検討
- 自治体の職員には実態把握と実効性の確保が困難
- 産業動物と同様にペットとは飼養管理方法が異なる。業界団体は実態を把握しているので実験動物生産業者を動物取扱業の登録対象に含めるべきでない
- 動物種によっては実験動物と家庭動物等の両方で扱われるので、動物取扱業の登録対象とすべき
- 3R のうちの代替法利用と使用数削減も義務規定とすべき

ここでは、実験動物の取扱いは現行のままとすべき、すなわち届出制は導入すべきでないとする意見と、実験動物に対する法規制を強化すべきであるとする意見が両論併記されていますが、このことを日本医学会は大変遺憾に思います。

われわれ日本医学会は、関係各省の動物実験基本指針に則った研究機関等による動物実験の自主管理が順調に定着・普及していることから、現行を継続し、しかるべきときに自主管理に対する評価を行った後、実験動物に対する法規制強化の必要性を検討すべきであると考えます。この過程を経ずいたずらに法規制を強化すれば、生命科学研究に空洞化を招くおそれがあります。動物実験・実験動物関係団体の連携強化と継続的な検

証の実施により、実験動物の愛護・福祉に配慮した生命科学研究と医療がますます発展
することを確信しております。